

# 日本人 EFL 学習者の Zoom Breakout Room に対する認識と評価

鍋井 理沙<sup>1</sup> 原田 康也<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 東海大学 高輪教養教育センター 〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23

<sup>2</sup> 早稲田大学法学学術院 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

E-mail: <sup>1</sup> lisanabei@tsc.u-tokai.ac.jp, <sup>2</sup> harada@waseda.jp

## あらまし

本研究では、同期型オンラインツールである Zoom のブレイクアウトルームを使用したコミュニケーション重視の英語の授業に対する学生の考えや態度、満足度について調査した。Zoom を使用した英語の授業に出席した、英語能力が初級から中級程度の 151 名の日本人大学生を対象に、多肢選択式の質問と自由形式のアンケートを実施した。その結果、ほとんどの学生が Zoom のブレイクアウトルームを使用した活動に満足し、効果を感じている一方で問題点や改善点についての指摘も見られた。本稿では EFL クラスにおける Zoom のブレイクアウトルームを使用した英語の授業に出席した学生のアンケート結果をもとに、コミュニケーション型の英語の授業におけるオンラインツールの効果的な使用について分析する。

**キーワード** オンライン学習, Zoom ブレイクアウトルーム,

## Japanese EFL Learners' Perceptions and Evaluation of Zoom Breakout Rooms

Lisa NABEI<sup>1</sup> Yasunari HARADA<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Takanawa Liberal Arts Education Center, Tokai University 2-3-23 Takanawa, Minato-ku, Tokyo, 108-8619 Japan

<sup>2</sup>Faculty of Law, Waseda University Nishi-Waseda 1-6-1, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, JAPAN

E-mail: <sup>1</sup> lisanabei@tsc.u-tokai.ac.jp, <sup>2</sup> harada@waseda.jp

## Abstract

Since the outbreak of the COVID-19 pandemic, many educators were forced to convert from face-to-face to the online classes. Zoom has become one of the most popular platforms for live online classes in various sorts of educational contexts including English language classes. The purpose of this study was to investigate students' attitudes towards the use of Zoom breakout room, a synchronous online tool, in remote English communication classes and their perceptions and satisfaction of its effects on their learnings. Participants included 151 university students in central Tokyo, whose English proficiency level varies from lower intermediate to intermediate. Data collection comprised multiple choice questions, and an open-ended survey. The results indicated that most of the students found the activities in the Zoom breakout room valuable and effective while some suggested that there were issues to be addressed. Findings and practical implications will be discussed for future research pertaining to the use of Zoom breakout rooms in EFL classes.

**Keywords** online language learning, Zoom breakout room,

## 1. はじめに

2020 年初頭に始まった COVID-19 の大流行により、多くの教育者が対面授業からオンライン授業への転換を余儀なくされた。このような状況のなか Zoom は英語授業をはじめとするさまざまな教育現場で、双方向

オンライン授業を行うための最も人気のあるプラットフォームのひとつとなった。第 1 著者も 2020 年 5 月から全ての担当授業で Zoom を使った双方向授業を実施している。Zoom には「ブレイクアウトルーム」と呼ばれる、Zoom 上でミーティングに参加している参加

鍋井理沙・原田康也, “日本人 EFL 学習者の Zoom Breakout Room に対する認識と評価”,  
言語学習と教育言語学 2021 年度版, pp. 47-53,

日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, 早稲田大学情報教育研究所発行, 2022 年 3 月 31 日.

Copyright © 2021-22 by Nabei, L., & Harada, Y. All rights reserved.

者を小さなグループに分け、それぞれの「個室」でミーティングができる機能がある。コロナ禍後、急ぎしらせで始まったオンライン授業も Zoom のブレイクアウトルームを使うことで、教室授業の臨場感や学生間の交流を促進させる場として機能させるツールの一つとして多用されてきた。ブレイクアウトルームは対面授業における少人数での会話・応答練習の代替方法として第1著者もほぼすべての授業で2-4人の少人数グループワークの場として活用してきたオンデマンド授業に比べ、Zoomの、特にブレイクアウトルームを使用した授業はより対面授業に近い形で教員と学生がコミュニケーションをとることが可能であるが、一方で学生が各「個室」に入ってタスクをしている間、教員は一度に一つの個室にしか入れず残りの学生たちの様子がわからず、サポートや指示もすぐにできないという問題も抱えている。

## 2. 背景

ブレイクアウトルームはオンライン上で少人数のグループワークを可能にする非常に便利な機能ではあるが、「個室」が他のクラスメート（や教員）から隔離されてしまうため、中には周りの様子から学ぶことやサポートが満足に得られず、個室での活動が滞る事例が報告されている[1][2]。ブレイクアウトルームと教室（対面）授業における少人数グループワーク在り方の違いについては、第2著者がオンライン授業下における学生間のインタラクションや、教室内で複数の学生が英語での応答練習をすることから生まれる「ざわめき」の観察をまとめている[3][4]。当事者の学生間でもブレイクアウトルーム内でのグループワークは難しいこともあるようで、SNSでもZoomクラスでの英語による全体説明からブレイクアウトルームに移動後、隔離された個室の中で学生たちがやるべき課題の内容を理解していなかったり、課題をあきらめてしまったりしている様子を揶揄した動画が投稿後半年ほどで約15万回視聴されており、共感を集めているようだ[5]。本稿では、現状では「ブラックボックス」の側面もあるZoomのブレイクアウトルーム内での少人数の英語グループワークについて、学生がどのように感じているのかを多肢選択式の質問と自由形式のアンケートで調査した。

## 3. 調査方法

### 3.1. 参加者(被験者)

英語のレベルが lower intermediate から intermediate 程度 (TOEIC の点数は 300 - 550 程度) の理系 (情報系) 学部の日本人大学生 151 人。内訳は 1 年生 68 人、2 年生 38 人、3 年生 39 人、4 年生が 5 人であった。

学生は全て英語の必修、もしくは選択の授業で Zoom のブレイクアウトルームを使用した授業を 1 セメスタ以上受講している。

### 3.2. Zoom ブレイクアウトルーム内でのタスク

Communicative English の習得を目的とした Zoom のグループワーク・タスクは 2 種類あり、1 つは①あらかじめ内容を知らされていた質問について、3 - 4 人で質疑応答をし合う課題で、2 つ目は②2 人一組で Writing の課題について Zoom の「画面共有」で原稿を共有し、推敲するタスクである。各タスクの具体的な事例は以下の通り。ルーム内での会話は全て英語を使う指示が出ていた。

#### ①3 - 4 人グループでの質疑応答

学生にはあらかじめ (前週に) 質問と、答え方の例文の一部が提示されており、これらが書かれたスライドを画面共有しながらお互いに応答練習を実施した。

質問: What did your failure teach you? Explain one of the lessons you've learnt from your failure.

応答例: When I was...

I learnt that...

The lesson I learnt from that experience is that...

質問: When things change, do you usually feel nervous or excited? Why? Please give reasons for your answer.

応答例: When things change, I tend to feel ... because ...

I'm always ... when things change because ...

#### ②2 人一組で Writing の課題について Zoom の「画面共有」で原稿を共有し WORD の校閲機能を使って Peer Review する

課題例: "My biggest achievement." You will talk about your achievement in your life. Tell us what you have done in your life, how you overcame difficulties or problems to achieve it, and what you are planning for even better outcome.

課題例: "My project that can help the world." You will introduce your project that can help other people. You can also create an invention that is good for the world. Explain the details of your project. How does your project help other people? What good does it do to the society?

被験者のうち、1 年生 68 人及び 2 年生 38 人は上記の①②の課題を Zoom のブレイクアウトルームを使用

して 2021 年度の春・秋セメスタに実施している。3・4 年生は 1・2 年時（2020 年度春・秋セメスタ）に①②の課題を教室（対面）で実施しているほか、他の Communicative English の英語授業を 3・4 年時（2021 年度秋セメスタ）に Zoom ブレークアウトルームを利用したオンライン授業で経験している。このため、3・4 年生にはアンケートの際、「現在参加している Zoom のブレークアウトルームを使用したグループワーク・タスクを参考に、①②の課題をブレークアウトルームで実施したと考えて答えて欲しい」との条件を足した。各学年が経験した①②のタスク回数・時間は以下の表 1 の通り。

表 1 課題①②を経験した方法と回数（時間）

	課題①	課題②
1 年	ブレークアウトルームで 10 回×20-30 分程度	ブレークアウトルームで 4 回×20-30 分程度
2 年	ブレークアウトルームで 20 回×20-30 分程度	ブレークアウトルームで 8 回×20-30 分程度
3 年	1.2 年時に教室(対面 授業)で 20 回×20- 30 分程度	1.2 年時に教室(対面 授業)で 8 回×20-30 分程度
4 年	1.2 年時に教室(対面 授業)で 20 回×20- 30 分程度	1.2 年時に教室(対面 授業)で 8 回×20-30 分程度

### 3.3. アンケート内容

Zoom のブレークアウトルームを使用した英語の少人数でのグループワーク・タスクに関する学生の所感を、多肢選択式の質問と自由形式のアンケートで調査した（付録 資料 1）。学生の自由な意見を広く集めるため記述式の質問が主体だが、学生が答えやすいように選択式の設問の後にその理由や背景を記述で説明する形式をとった[6]。質問は無記名で学生全員がアクセスできる Teams の Form 及び Google Form を使ってオンライン上で回答してもらった。質問項目については第 2 著者の先行研究を参考に、学生がブレークアウトルーム内で少人数でタスクをこなすことについてどう思っているのかを引き出すため、Zoom やブレークアウトルームに関する所感・評価を質問した主要な部分では自由記述の形をとった（学生にわかりやすくするため、アンケートでは「ブレークアウトルーム」を「Breakout room」と英語表記している）。

### 4. 結果および考察

Zoom 及びブレークアウトルームを使用した授業・少人数グループでの英語タスクに参加した学生の所

感・評価は以下ようになった。

【質問 2】 Zoom 授業及び Breakout room での体験であなにとって良かったこと・ものについて教えてください。 ※当てはまるものは全て選んでください（複数回答可）

表 2 Zoom 授業で良かったこと（複数回答可）

PC のスクリーン上で、先生やクラスメイトの顔を直接見られること	26.5%
先生やクラスメイトの話が聞けること(リアルタイムで反応がわかること)	34.4%
ブレークアウトルームを活用し、少人数でディスカッションが行えること	53.6%
ブレークアウトルームを活用し、ペアで英語の Writing を共有し、アドバイスしあえること	36.4%
特にな	21.9%

学生が答えやすいように表 1 にある選択肢を 5 つ用意した質問では、半分以上の学生が「ブレークアウトルームを活用し、少人数でディスカッションが行えること」を選択していることから、学生は個室内での少人数での会話（ディスカッション）を重視していることが分かる。同じように個室でのタスクであるが「ペア=2 人」で実施するタスクについて選択した学生は 36.4%とディスカッションへの評価より 17.2%下がる。これは、自由記述でのコメントにも「やる気のない人と組むと何も始まらない」「無理な話かとは思いますが、常にやる気のある人と組みたいです。2 人だと相手がやらない人だと最悪なのでもう少し人数が多い方が良い」といったコメントがあった通り、ペアの場合相手のモチベーションが低いとタスクができない事態に陥ってしまっていることがあるようだ。一方、Writing の課題を WORD の校閲機能を使ってお互いに添削し、改善していく Peer Review に関しては、「対面よりも「画面共有」で電子版の原稿を活用して、その場で直していくことで議論が効率的に行え、時間の節約になる」といった好意的な意見も多数あった。

オンライン上でリアルタイムで交流できる利点に関しては「直接顔を見られること」を 26.5%、「直接声を聴ける（対話ができる）こと」を 34.4%の学生が評価しており、オンラインでの対話ができればカメラをオンにしなくても良いと考えている学生も一定数いる様子が伺える。一方、オンライン上での対面を利点に挙げる学生が、ペアワークや少人数でのディスカッションを評価する比率より低いのは、学生がコロナ禍で通学できない環境下ではクラスメイトや教員の顔をただ見る（声を聞く）ということよりも、他の学生との

協同の場を求めていることを示唆しているようだ。ただ中には「教室の授業だと基本的に先生の反応しか見られないので、プレゼンテーションや複数人のワークの際に先生だけでなく生徒全員の反応が見れたのが良かったです。」と全員の顔が見えることを評価する声もあった。Zoom 授業ではスクリーン上に（ギャラリービューであれば）クラスメイトと教員の画像が一覧で並ぶので、クラスのメンバーの反応をより俯瞰してみることができた、という Zoom 授業ならではの新たな長所を学生が感じていることがうかがえる。

質問 4 では、同じ多岐選択肢を使い、こうした Zoom とブレイクアウトルームを使用した英語の授業について学生が否定的な意見を持っているかどうかについても調査した。

【質問 4】 Zoom 授業及び Breakout room での体験であなたにとって悪かったこと・ものについて教えて下さい。※当てはまるものは全て選んでください（複数回答可）

表 3 Zoom 授業で悪かったこと（複数回答可）

PC のスクリーン上で、先生やクラスメイトの顔を直接見られること	21.2%
先生やクラスメイトの話が聞けること(リアルタイムで反応がわかること)	2.0%
ブレイクアウトルームを活用し、少人数でディスカッションが行えること	11.3%
ブレイクアウトルームを活用し、ペアで英語の Writing を共有し、アドバイスしあえること	4.6%
特になし	64.9%

64.9%の学生が、「Zoom 授業及びブレイクアウトルームで（自分にとって）悪かった経験」は「特になし」と答えていることから、オンラインの双方向授業及びブレイクアウトルームを使用した英語の授業に対する満足度は比較的高いと言える。個別のコメントでも「グループワークもできるし、対面の授業と比べて特段劣っているところは無いと思う」「マスク無しの顔を見られるのは良かった」と肯定的なものが多かった。「特になし」を選択している学生の自由記述のコメントで最も多かったのが「（特に無いが、）通信が良くないと自分ではどうにもできないので困る」と通信環境の問題について触れており、Zoom を使ったオンライン授業が提供できる内容の質に関しては概ね好意的であった。

「PC のスクリーン上で先生やクラスメイトの顔を直接見られること」をネガティブな経験として感じた学生が 21.2%いたが、これは「自分の顔を見られること」に抵抗を感じたようである。学生の中には、「家の

中や家にいる自分を見られたくない」「Zoom 授業の良いところは家から出なくていい点なのに、顔を出すと髪型なども気にしないといけないから」と身だしなみにかかる労力等を厭う声があった。また、「(Zoom などのカメラ機だと) 自分の顔がアップで映されるので、対面以上に見られていることを意識してしまっていていやだと感じました。」と、PC 画面上に自分の顔が写ることに抵抗を感じている意見も散見された。ただ、「カメラをオンにすると通信が重くなるから嫌」として、顔を出すということよりも単に通信状況が悪化することを懸念している意見も多数あった。

質問 6 以降では特に学生のブレイクアウトルームに対する考えと評価を詳しく聞くため、以下の質問を用意した。

【質問 6】 クラス全体で授業を受けている時と、Breakout room に入った後の少人数の環境では、どちらが発言しやすかったですか？この質問には 89.4%の学生がブレイクアウトルームの方が発言しやすいと答え、クラス全体よりも少人数の個室の方が発話への抵抗感が低くなることが分かった。

【質問 7】 Breakout room（少人数）に入った後、なかなか room 内での活動が始まらなかった（始められなかった）ことはありますか？51.0%の学生が「はい」と答えており、ブレイクアウトルームへ移動した後のグループワーク活動の難しさを伺わせた。

【質問 8】 上（質問 7）の質問で「ある」と答えた方、Breakout room に移った後、すぐに活動が始まらなかった（始められなかった）理由は何だと思いますか？※当てはまるものは全て選んでください（複数回答可）

表 4 ブレイクアウトルームに入った後、活動が始まらなかった理由

何をやればいいのかわからなかった	11.9%
グループ内のほかの学生に話しかけにくかった	23.8%
あまり英語が得意でない自分が中心になってタスクをやっても良いのかためらった	16.6%
誰かが始めてくれるのを待っていた	21.2%
英語が好きではなく、何もしたくなかった	4.0%
先生が見ておらず、何もしなくてもばれないのでそのままやり過ごそうと思った	1.3%
英語で話すことに自信がないので、発言しにくかった	21.2%
その他	13.2%

少人数グループに分けられ、ブレイクアウトルームに移動した後に個室で活動がすぐに始まらなかったこと

がある学生のうち、23.8%の学生が「グループ内のほかの学生に話しかけにくかった」ことを挙げている。コロナ禍が始まってから英語の授業は全てオンラインとなっているため、クラスメイトと実際に会う機会も少なく特にセメスタ始めの授業開始時には知らない学生と数人で個室に入れられ、コミュニケーションに苦労した様子が伺える。理系学生で英語に苦手意識が強いこともあり、「あまり英語が得意でない自分が中心になってタスクをやっても良いものかためらい」(16.6%)、「誰かが始めてくれるのを待っていた」(21.2%) 消極的な姿勢になってしまったことが、ブレイクアウトルーム内でのタスクが進まなかった原因のようだ。「その他」で活動が始めにくかった理由として、「(個室が)シーンとしていて声をかけにくかった」「カメラをオンにしてくれない人もいて、様子が見えない」とのコメントもあり、教室での対面授業であれば得られる「隣の学習者」の存在感や、他の学生同士のやりとりが漠然と聞こえる「ざわめき」がないことが活動を始めにくくする要因の一つになっている様子も見える。一方、SNS で揶揄されているような、個室に入った後に「何をやればよいのかわからなかった」学生は 11.9%とそう多くはなく、ブレイクアウトルーム内での少人数のタスクに対する学生のモチベーションは低くないことも伺える。

ブレイクアウトルームを使用した英語のグループワーク活動に関しては、【質問 10】の「Breakout room (少人数に分かれた場)での少人数でのディスカッションや Writing 課題の改善活動について「良かった。今後やりたい」を 89.4%の学生が選択しており、学生の満足度が高いことが分かる。一方、「やりにくかった。今後はやりたくない」(12.6%)の学生にその理由を自由記述形式で聞いたところ、「進行役や、誰から話すのかを決めて欲しい。自分からでしゃばるのも苦痛」「面識があまりない人と毎回個室に放り込まれても辛い」と対人コミュニケーションの問題を挙げるコメントが散見された。初対面の相手と話し合いながらイニシアティブをとるのも学びの一つではあるが、学生同士が出会ったばかりの学期はじめなどには教員(ファシリテーター)が率先して学生の役割を決めてしまった方がタスクの進捗がはかどるのではないだろうか。

最後に自由記述形式で尋ねた【質問 10】「Breakout room がどう使われればあなたの満足度はもっと高かったでしょうか?」では、「ブレイクアウトルームに入る人を選ばせてほしい。やる気のある人と組みたい」「英語の能力が違い過ぎる人と組むと辛いので、同じくらいの人と入れて欲しい」「全員同じ条件で参加させてほしい。カメラをオンにする人とオフのままの人が混在するとやりにくい」といったルールの徹底や、モ

チベーション・英語能力を基にしたグループ分けを希望する声があった一方、「今のままの使い方でいいです。教室での活動と同じようなことができていると思う」とブレイクアウトルームでの活動を評価する声も多かった。

ブレイクアウトルームでの活動について比較的肯定的なコメントが多かったのは、当学部が情報系のため学生が PC の使用や PC 画面を通してのコミュニケーションに対して他の学部の学生に比べて抵抗感が少なかった可能性も考えられる。一方、人付き合いに関しては苦手意識を持っている学生が多いという特徴もあり、Zoom 授業でのブレイクアウトルームの利用でも「自分から話したくない(イニシアティブをとれない)」といったコミュニケーション上の問題点を挙げる学生が多かった。何も無いところで自分から話しかけるのが苦手な学生には、教室の対面授業で感じられる「ざわめき」に代わる何かを各個室内で作れるような工夫があれば随分助けになるのではないかと考えられる。すぐに個室で「ざわめき」に代わる何かを作るとは難しいが、教員が全ての個室を俯瞰し、個々のブレイクアウトルームの音声もボタン一つで切り替えて聞けるようなシステムがあれば、適切なタイミングで学生のサポートができるかもしれない。

## 5. 今後の課題

本アンケートでは 151 人と比較的多くの学生に Zoom のブレイクアウトルームに関する評価を聞くことができたが、1・2 年生に比べ、3・4 年生からの回答を多く回収することができなかった。コロナ禍後のオンライン授業しか受けていない 1・2 年生が回答の 7 割を占めたため、Zoom・ブレイクアウトルームを使用した授業に対して好意的な意見が多かった可能性もある。今後、大学での対面授業を経験しており、オンライン授業との比較ができる 3・4 年生からのデータをさらに集め、1・2 年生の回答と比べる必要があると考える。また、質問項目に関しては第 1 著者がオンラインの英語授業で接した学生の普段との会話から Zoom やブレイクアウトルームを使った授業に関する考えに関するキーワードやポイントを抽出し質問を作成したが、より多くの学生の意図・考えを拾えるよう多岐選択肢の項目を改善したい。自由な考えを聞くには自由記述式の質問がベストではあるが、考えをまとめて自由に記述できる学生ばかりではないので選択肢やより考えを表現しやすい質問項目・形式を活用したい。

1・2 年生に関しては今後コロナ感染が収まり、対面での授業を受けた時にオンライン授業に対する意見が変わるのか、学生にとって Zoom のブレイクアウト

ーム機能が完全に対面授業を代替できるようになるのか、引き続き注視していきたい。

付録  
資料 1

## 文 献

- [1] 原田康也・赤塚祐哉・鍋井理沙・坪田康・森下美和, 「自律的相互学習における『ざわめき』の意義」, 電子情報通信学会技術報告 TL2021-5, vol. 121, no. 87, pp. 15-19, ISSN 0913-5685 / ISSN 2432-6380, 社団法人 電子情報通信学会, 2021年6月26日.
- [2] 原田康也・赤塚祐哉・坪田康・鍋井理沙・森下美和, 「オンライン授業における学生間のインタラクション(相互作用)と全人的な交流機会の担保」, 日本認知科学会第37回大会発表論文集, pp. 278-287, 日本認知科学会, 2020年9月17-19日
- [3] 原田康也・森下美和・鈴木正紀・横森大輔・遠藤智子・前坊香菜子・鍋井理沙・栗原奈な子・山田寛章・河村まゆみ, 「自律的相互学習の記録と分析からインタラクションの楽しさへ: 外国語としての英語自動処理の難しさを超えて」, 電子情報通信学会技術報告 TL2018-53, vol. 118, No. 516, pp. 17-22, ISSN 0913-5685 / ISSN 2432-6380, 社団法人 電子情報通信学会, 2019年3月11日.
- [4] 原田康也・赤塚祐哉・鍋井理沙・坪田康・森下美和, 「自律的相互学習における『ざわめき』の意義」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, オンライン, 2021年7月3日.
- [5] しがない数学徒の裏アカウント, 「大学の英語の授業で先生の指示聞き取れなかったとき」, <https://www.youtube.com/watch?v=8c-up99IOzM> (2021, June 20)
- [6] 田村岳充, 「受講者アンケートから見るオンライン授業の効果と課題—2020年度前期開講, 英語科教育法 II の授業を通して—」, 宇都宮大学共同教育学部研究紀要. 第1部. 2021 Mar 31(71):331-50.
- [7] Kohnke L, Moorhouse BL. Facilitating synchronous online language learning through Zoom. RELC Journal. 2020 Jan 1:0033688220937235.
- [8] Serhan D. Transitioning from face-to-face to remote learning: Students' attitudes and perceptions of using Zoom during COVID-19 pandemic. International Journal of Technology in Education and Science. 2020 Sep 2;4(4):335-42.
- [9] 拝田清, 吉野康子, 山崎千春, 鹿住尚子. Web 会議システム (Zoom) を利用した同時双方向遠隔教育の試験的実践. 和洋女子大学紀要. 2021 Mar 31;62:167-77.
- [10] 佐藤修. Zoom を利用したオンライン授業の実践と課題. 玉川大学教師教育リサーチセンター年報 = Annual report of the Center for Teacher Education Research, Tamagawa University. 2019(10):85-94.

## Zoom 授業についてのアンケート (Teams の Form 及び Google Form で配布)

1. あなたの学年を教えてください。  
 1年生  
 2年生  
 3年生  
 4年生
2. Zoom 授業及び Breakout room での体験であなたにとって良かったこと・ものについて教えてください。※当てはまるものは全て選んでください(複数回答可) 現在 Zoom 授業を受けていない方は、過去の Zoom 授業を思い出してください。  
 PC のスクリーン上で、先生やクラスメイトの顔を直接見られること  
 先生やクラスメイトの話が聞けること(リアルタイムで反応がわかること)  
 Breakout room を活用し、少人数でディスカッションが行えること  
 Breakout room を活用し、ペアで英語の Writing を共有し、アドバイスしあえること  
 特にない
3. 2番の質問で、なぜそう思ったのか教えてください。選択肢になかった感想や、教室での対面授業(高校の授業等も)との比較も含めて、自由に「Zoom 授業を受けて自分が良かったと思ったこと」についてお書きください。(自由記述解答)
4. 逆に、Zoom 授業であなたにとって悪かったこと・ものについて教えてください。※当てはまるものは全て選んでください(複数回答可)。現在 Zoom 授業を受けていない方は、過去の Zoom 授業を思い出してください。  
選択肢は質問 2. と同じ
5. 4番の質問で、なぜそう思ったのか教えてください。選択肢になかった感想や、教室授業との比較も含めて、自由に「Zoom 授業を受けて自分が嫌だと思ったこと、欠点だと思ったこと」についてお書きください。(自由記述解答)
6. クラス全体で授業を受けている時と、Breakout room に入った後の少人数の環境では、どちらが発言しやすかったですか？

- クラス全体での授業(クラス全員が見えている状態)
  - Breakout room(2~4人に分かれた後の状態)
7. Breakout room(少人数)に入った後、なかなか room 内での活動が始まらなかった(始められなかった)ことはありますか？
- ある
  - ない
8. 上の質問 7. で「ある」と答えた方、Breakout room に移った後、すぐに活動が始められなかった(始められなかった)理由は何だと思いますか？※当てはまるものは全て選んでください(複数回答可)
- 何をやればいいのかわからなかった
  - グループ内のほかの学生に話しかけにくかった
  - あまり英語が得意でない自分が中心になってタスクをやっても良いのかためらった
  - 誰かが始めてくれるのを待っていた
  - 英語が好きではなく、何もしたくなかった
  - 先生が見ておらず、何もしなくてもばれないのでそのままやり過ごそうと思った
  - 英語で話すことに自信がないので、発言しにくかった
  - その他
9. 8 番で「その他」と答えた方、ぜひ理由を教えてください。(自由記述解答)
10. Breakout room(少人数に分かれた場)での少人数でのディスカッションや Writing の改善活動について、どう思われましたか？
- 良かった。今後もやりたい。
  - やりにくかった。今後はやりたくない。
11. 10 番で「やりにくかった。今後はやりたくない」と答えた方、ぜひ理由を教えてください。(自由記述解答)
12. Breakout room がどう使われれば、あなたの満足度はもっと高かったでしょうか？遠慮せず、自由な意見をお書きください。(自由記述解答)